

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6725410号
(P6725410)

(45) 発行日 令和2年7月15日 (2020.7.15)

(24) 登録日 令和2年6月29日 (2020.6.29)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 7 B 97/00 (2006.01)

A 4 7 B 97/00

M

A 4 7 B 83/00 (2006.01)

A 4 7 B 83/00

請求項の数 7 (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2016-249605 (P2016-249605)
 (22) 出願日 平成28年12月22日 (2016.12.22)
 (65) 公開番号 特開2018-102396 (P2018-102396A)
 (43) 公開日 平成30年7月5日 (2018.7.5)
 審査請求日 令和1年7月19日 (2019.7.19)

(73) 特許権者 000000561
 株式会社オカムラ
 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
 (74) 代理人 100149548
 弁理士 松沼 泰史
 (74) 代理人 100094400
 弁理士 鈴木 三義
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (72) 発明者 土山 和功
 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
 株式会社岡村製作所内
 (72) 発明者 黒江 真行
 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
 株式会社岡村製作所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 配線収容什器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

設置面の上に設置され内部に配線ケーブルを収容する配線収容スペースを有する配線収容部と、

前記配線収容部の上方に配置され機能を有する機能部と、

前記配線収容部の内側において前記設置面に設置され前記機能部を支持する支持部と、
 を有し、

前記配線収容部は、上端部に設けられて上下方向に貫通する天板開口部が形成された天板部を有し、

前記支持部は、前記配線収容部の内部における前記配線収容スペースを挟んだ位置にそれぞれ設置され、前記設置面から上方に延びて前記天板開口部を貫通して前記機能部と連結される一対の脚部を有することを特徴とする配線収容什器。

10

【請求項 2】

前記配線収容スペースは、第1方向に延在していて、

前記一対の脚部は、前記配線収容スペースの前記第1方向に直交する第2方向の両側方に設置されていることを特徴とする請求項1に記載の配線収容什器。

【請求項 3】

前記機能部は、前記第2方向の寸法が前記配線収容部の前記第2方向の寸法よりも小さく形成され、上下方向から見て前記配線収容部の内側に配置されていることを特徴とする請求項2に記載の配線収容什器。

20

【請求項 4】

前記配線収容部は、前記天板開口部の下側に設けられて前記一对の脚部それぞれの位置決めを行う規制部を有することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に記載の配線収容什器。

【請求項 5】

前記規制部は、上下方向に開口し前記一对の脚部を挿通可能な複数の規制開口部を有することを特徴とする請求項 4 に記載の配線収容什器。

【請求項 6】

前記機能部は、物品を収納可能な収納部であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の配線収容什器。

10

【請求項 7】

前記機能部は、人が着座可能な着座部であることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に記載の配線収容什器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、配線収容什器に関する。

【背景技術】**【0002】**

内部に配線ケーブルを収容する配線収容スペースを有する配線収容什器として、床面などの設置面の上に机や間仕切りパネルなどの他の什器と隣接して設置されるものが知られている（例えば、特許文献 1 参照）。このような配線収容什器は、他の什器と隣接していることにより一体感が増して意匠性を向上させることができるとともに、限られたスペースであっても他の什器とともに効率よく配置することができる。

20

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2004 - 162271 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】**

30

【0004】

通常、配線収容什器は、設置面に沿って延びる横長形状などの比較的高さの低い形状に形成されている。そして、配線収容什器の上方には、利用されていない空間が形成されている。このため、上方の空間を有効に利用することができる配線収容什器が望まれている。

【0005】

そこで、本発明は、上方の空間を有効に利用することができる配線収容什器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

40

上記目的を達成するため、本発明に係る配線収容什器は、設置面の上に設置され内部に配線ケーブルを収容する配線収容スペースを有する配線収容部と、前記配線収容部の上方に配置され機能を有する機能部と、前記配線収容部の内側において前記設置面に設置され前記機能部を支持する支持部と、を有し、前記配線収容部は、上端部に設けられて上下方向に貫通する天板開口部が形成された天板部を有し、前記支持部は、前記配線収容部の内部における前記配線収容スペースを挟んだ位置にそれぞれ設置され、前記設置面から上方に延びて前記天板開口部を貫通して前記機能部と連結される一对の脚部を有することを特徴とする。

【0007】

本発明では、配線収容部の上方に機能部が配置されていることにより、配線収容部の上

50

方の空間を有効に利用することができる。

また、一对の脚部は、それぞれ設置面に設置された状態で機能部を支持しているため、機能部をがたついたりせずに安定した状態で支持することができる。また、一对の脚部が機能部を支持することにより、配線収容什器を構成する一对の脚部以外の部材を機能部を支持可能な強度とする必要がないため、配線収容什器の小型化および製作コストの削減を図ることができる。

また、一对の脚部は、上下方向から見て配線収容部を挟んだ位置に配置されているため、一对の脚部が配線収容部の内側に配置されていても、一对の脚部と配線とが干渉することを抑制できる。

【0008】

10

また、本発明に係る配線収容什器では、前記配線収容スペースは、第1方向に延在していて、前記一对の脚部は、前記配線収容スペースの前記第1方向に直交する方向の両側方に設置されていてもよい。

このような構成とすることにより、第1方向に沿って配線を収容しやすい。

【0009】

また、本発明に係る配線収容什器では、前記機能部は、前記第2方向の寸法が前記配線収容部の前記第2方向の寸法よりも小さく形成され、上下方向から見て前記配線収容部の内側に配置されていてもよい。

上下方向から見て機能部が配線収容部よりも外側に突出していると、機能部の配線収容部から突出した部分を支持するための支持手段を設けなければならないことがある。これに対し、本発明では、このような支持手段を設ける必要がないため、配線収容什器の製造や組み立てを容易に行うことができる。

20

また、機能部が配線収容部よりも外側に突出していないことにより、配線収容什器の意匠性を向上させることができる。

【0010】

また、本発明に係る配線収容什器では、前記配線収容部は、前記天板開口部の下側に設けられて前記一对の脚部それぞれの位置決めを行う規制部を有していてもよい。

このような構成とすることにより、一对の脚部の位置決めを容易にでき、機能部を正位置に容易に配置することができる。

【0011】

30

また、本発明に係る配線収容什器では、前記規制部は、上下方向に開口し前記一对の脚部を挿通可能な複数の規制開口部を有していてもよい。

複数の規制開口部のうちの任意の規制開口部に一对の脚部をそれぞれ挿通させることにより、一对の脚部の位置決めを容易にでき、機能部を正位置に容易に配置することができる。

【0012】

また、本発明に係る配線収容什器では、前記機能部は、物品を収納可能な収納部であってもよい。

このような構成とすることにより、配線収容部の上方を収納部として有効に利用することができる。

40

【0013】

また、本発明に係る配線収容什器では、前記機能部は、人が着座可能な着座部であってもよい。

このような構成とすることにより、配線収容部の上方を着座部として有効に利用することができる。

【発明の効果】

【0014】

本発明によれば、配線収容部の上方の空間を有効に利用することができる。

【図面の簡単な説明】

【0015】

50

【図１】本発明の第１実施形態による配線收容什器の一例を示す斜視図である。

【図２】本発明の第１実施形態による配線收容部の一例を示す斜視図である。

【図３】本発明の第１実施形態による配線收容部の一例を示す分解斜視図である。

【図４】本発明の第１実施形態による第１カバー部材、第２カバー部材および収納部を省略した配線收容什器の一例を示す斜視図である。

【図５】本発明の第１実施形態による収納部を省略した配線收容什器の一例を示す平面図である。

【図６】本発明の第１実施形態による配線收容什器を長さ方向の他方側から見た側面図である。

【図７】本発明の第２実施形態による配線收容什器の一例を示す斜視図である。

10

【図８】本発明の実施形態による配線收容什器の変形例を示す斜視図である。

【図９】本発明の実施形態による配線收容什器の他の変形例を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１６】

（第１実施形態）

以下、本発明の第１実施形態による配線收容什器について、図１乃至図６に基づいて説明する。

図１に示すように、第１実施形態による配線收容什器１Ａは、床面（設置面）１１に設置されていて、床面１１に沿った長尺に形成されている。配線收容什器１Ａが延びる水平方向を長さ方向（第１方向）とし、長さ方向に直交する水平方向を幅方向（第２方向）とする。以下の説明における各部材の姿勢や向きは、配線收容什器１Ａが床面１１に設置された際の姿勢や向きであるものとする。

20

【００１７】

配線收容什器１Ａは、床面１１に設置され配線收容スペース２が設けられた配線收容部３と、配線收容部３の上方に設けられた収納部（機能部）４と、配線收容部３の内部において床面１１に支持され収納部４を配線收容部３の上方に支持する支持部５と、を有している。

【００１８】

図２および図３に示すように、配線收容部３は、互いに長さ方向に間隔をあけて床面１１に設置された第１端部部材３１および第２端部部材３２と、長さ方向に延在し第１端部部材と第２端部部材３２との間に配置された配線收容部材３３と、長さ方向に延在し第１端部部材と第２端部部材３２との間に配置された規制部３４と、配線收容部材３３および規制部３４の幅方向の一方側に設けられた第１カバー部材３５と、配線收容部材３３および規制部３４の幅方向の他方側に設けられた第２カバー部材３６と、規制部３４の上方に設けられた第３カバー部材３７と、を有している。

30

【００１９】

第１端部部材３１および第２端部部材３２は、第１端部部材３１が長さ方向の一方側に配置され、第２端部部材３２が長さ方向の他方側に配置されている。

第１端部部材３１は、平板状の板部３１１と、それぞれ板部３１１の下端部から下側に突出し幅方向に間隔をあけて配置された一対の脚部３１２、３１２と、を有している。

40

板部３１１は、板面が略長形状に形成され、板面が長さ方向を向くように配置されている。板部３１１の幅方向の寸法は、配線收容部材３３および規制部３４の幅方向の寸法よりも大きく形成されている。板部３１１には、幅方向の中央部における下縁部近傍に、配線收容部材３３が連結される下側連結部３１３が設けられ、幅方向の中央部における上縁部近傍に、規制部３４を連結される上側連結部３１４が設けられている。

【００２０】

板部３１１には、長さ方向に貫通する２つの貫通孔３１５、３１５が互いに幅方向に間隔をあけて形成されている。２つの貫通孔３１５、３１５のうちの一方の貫通孔３１５は、板部３１１における幅方向の一方側に配置され、他方の貫通孔３１５は、板部３１１における幅方向の他方側に配置されている。これらの貫通孔３１５、３１５は、複数の配線

50

収容什器 1 A が長さ方向に配列され、隣接する配線収容什器（不図示）の配線収容スペース 2 に配線を渡す際に、配線を通すために形成されている。

一对の脚部 3 1 2 , 3 1 2 は、板部 3 1 1 の下縁部から下側に突出していて、床面 1 1 と当接した状態で床面 1 1 に設置されている。一对の脚部 3 1 2 , 3 1 2 には、それぞれアジャスタ 3 1 6 , 3 1 6 が設けられていて、各アジャスタ 3 1 6 , 3 1 6 を調整することにより第 1 端部部材 3 1 の高さおよび水平を調整可能に構成されている。

本実施形態では、第 1 端部部材 3 1 の外側（長さ方向の一方側）に第 1 端部部材 3 1 を覆う端部カバー部材 3 1 7 が設けられている。端部カバー部材 3 1 7 の長さ方向の一方側の面は化粧面となっている。

【 0 0 2 1 】

第 2 端部部材 3 2 は、第 1 端部部材 3 1 を長さ方向に対称とした形状に形成されている。このため、第 2 端部部材 3 2 の形状についての説明を省略する。第 1 端部部材 3 1 と第 2 端部部材 3 2 とは長さ方向に対向して配置されている。本実施形態では、配線収容什器 1 A の長さ方向の他方側に他の配線収容什器（不図示）が連結されている。このため、配線収容什器 1 A の第 2 端部部材 3 2 の長さ方向の他方側には端部カバー部材 3 1 7 が設けられていない。

【 0 0 2 2 】

配線収容部材 3 3 は、延在方向に直交する断面形状が上側に開口する略 C 字状に形成され、内部に配線を収容可能に構成されている。配線収容部 3 の内部および上部が配線収容スペース 2 となっている。

配線収容部材 3 3 は、長さ方向の一方の端部が長さ方向の一方の端部が第 1 端部部材 3 1 の下側連結部 3 1 3 に連結され、長さ方向の他方側の端部が第 2 端部部材 3 2 の下側連結部 3 1 3 に連結されている。配線収容部材 3 3 は、第 1 端部部材 3 1 および第 2 端部部材 3 2 に連結されると、床面 1 1 よりも上方に配置されている。

【 0 0 2 3 】

規制部 3 4 は、長さ方向に延在し延在方向に直交する断面形状が上側に開口する略 C 字状となる本体部 3 4 1 と、長さ方向に等間隔をあけて配列され本体部 3 4 1 の上端部から幅方向の一方側に突出する複数の第 1 突出片 3 4 2 , 3 4 2 ... と、長さ方向に等間隔をあけて配列され本体部 3 4 1 の上端部から幅方向の他方側に突出する複数の第 2 突出片 3 4 3 , 3 4 3 ... と、を有している。

規制部 3 4 は、長さ方向の一方の端部が第 1 端部部材 3 1 の上側連結部 3 1 4 に連結され、長さ方向の他方側の端部が第 2 端部部材 3 2 の上側連結部 3 1 4 に連結されている。規制部 3 4 は、配線収容部材 3 3 の上方に配置される。

【 0 0 2 4 】

本体部 3 4 1 は、配線収容部材と 3 3 略同じ幅寸法に形成され、配線収容部材 3 3 と上下方向に重なる位置に配置されている。

【 0 0 2 5 】

第 1 突出片 3 4 2 は、板面が上側を向く平板状に形成されている。長さ方向に隣り合う第 1 突出片 3 4 2 , 3 4 2 の間には、支持部 5 の第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 や、隣接される他の什器の脚部が配置されるように構成されている。長さ方向に隣り合う第 1 突出片 3 4 2 , 3 4 2 の間の空部を、それぞれ第 1 規制開口部 3 4 4 , 3 4 4 ... とする。第 1 規制開口部 3 4 4 , 3 4 4 ... に配置された支持部 5 の第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 や、隣接される他の什器の脚部は、床面 1 1 に設置されるように構成されている。

【 0 0 2 6 】

第 2 突出片 3 4 3 は、第 1 突出片 3 4 2 と同様に板面が上側を向く平板状に形成されている。長さ方向に隣り合う第 2 突出片 3 4 3 , 3 4 3 の間には、支持部 5 の第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 や、隣接される他の什器の脚部が配置されるように構成されている。長さ方向に隣り合う第 2 突出片 3 4 3 , 3 4 3 間の空部を、それぞれ第 2 規制開口部 3 4 5 , 3 4 5 ... とする。第 2 規制開口部 3 4 5 , 3 4 5 ... に配置された支持部 5 の第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 や、隣接される他の什器の脚部は、床面 1 1 に設置されるように

10

20

30

40

50

構成されている。

【0027】

第1規制開口部344, 344...および第2規制開口部345, 345...には、支持部5の第1脚部51および第2脚部52や、隣接される他の什器の脚部が配置されるように構成されている。このため、配線収容部材33および本体部341の幅方向の両側に、支持部5の第1脚部51および第2脚部52や、隣接される他の什器の脚部が配置されることになる。

本実施形態では、配線収容部材33の幅方向の両側の側部、および本体部341の幅方向の両側の側部には、それぞれ支持部5の第1脚部51および第2脚部52や隣接される他の什器の脚部を固定するためのボルトなどを取り付け可能な取付孔部が長さ方向に所定の間隔をあけて複数形成されている。

10

第1規制開口部344, 344...、第2規制開口部345, 345...、および取付孔部それぞれが設けられる長さ方向のピッチは、同じピッチとなるように設定されている。

【0028】

第1カバー部材35は、板面が長さ方向に延びる略長方形形状となり板面が水平面となる向きに配置される上板部351と、水平板部の幅方向の一方側の縁部から下側に延びる側板部352と、を有している。第1カバー部材35は、配線収容部3の上端面における幅方向一方側と幅方向一方側の端面に沿って配置される。

上板部351には、上下方向に貫通し、幅方向の他方側に開口する複数の切欠き部353, 353...が長さ方向に間隔をあけて形成されていて、切欠き部353, 353...を閉塞する蓋部材354, 354...が設けられている。切欠き部は、蓋部材を外すことで、配線収容什器1Aと隣接される机などの脚部を挿入可能に構成されている。切欠き部に配線収容什器1Aと隣接される机などの脚部を挿入すると、この脚部を床面11に設置することができる。

20

上板部351は、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの上縁部における幅方向の一方側に渡されるようにして、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの上に載置されている。側板部352は、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの幅方向の一方側の側縁部に渡されるようにして、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの幅方向の一方側に配置されている。

【0029】

30

上板部351は、幅方向他方側の縁部近傍のみが規制部34の第1突出片342, 342...の幅方向一方側の縁部近傍のみと上下方向に重なり、第1突出片342, 342...および第1規制開口部344, 344...を露出させるように配置されている。

側板部352は、下縁部が第1端部部材31および第2端部部材32の板部の下縁部と略同じ高さとなり、床面11との間に隙間が形成されるように配置されている。

【0030】

第2カバー部材36は、第1カバー部材35を幅方向に対称とした形状に形成されている。このため、第2カバー部材36の形状の説明を省略する。

第2カバー部材36の上板部361、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの上縁部における幅方向の他方側に渡されるようにして、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの上に載置されている。第2カバー部材36の側板部362は、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの幅方向の他方側の側縁部に渡されるようにして、第1端部部材31および第2端部部材32それぞれの幅方向の他方側に配置されている。

40

【0031】

第2カバー部材36の上板部361は、幅方向他方側の縁部近傍のみが規制部34の第2突出片343, 343...の幅方向他方側の縁部近傍のみと上下方向に重なり、第2突出片343, 343...および第2規制開口部345, 345...を露出させるように配置されている。

第2カバー部材36の側板部632は、下縁部が第1端部部材31および第2端部部材

50

３２の板部の下縁部と略同じ高さとなり、床面１１との間に隙間が形成されるように配置されている。

【００３２】

第３カバー部材３７は、板面が長尺の長方形となる板状に形成され、長さ方向に延びて板面が水平面となる向きに配置されている。

第３カバー部材３７は、規制部３４の本体部３４１と略同じ幅寸法に形成され、規制部３４の本体部の鉛直方向上側に配置されている。第３カバー部材３７は、長さ方向の一方の端部が第１端部部材３１の上側に載置され、長さ方向の他方側の端部が第２端部部材３２の上側に載置されている。

【００３３】

第３カバー部材３７は、第１カバー部材３５の上板部３５１および第２カバー部材３６の上板部３６１と略同じ高さに配置されている。第３カバー部材３７は、第１カバー部材３５の上板部３５１と幅方向に間隔をあけて配置されている。このため、第１カバー部材３５の上板部３５１と第３カバー部材３７との間から第１突出片３４２、３４２...および第１規制開口部３４４、３４４...が露出するように構成されている。また、第２カバー部材３６の上板部３６１と第３カバー部材３７との間から第２突出片３４３、３４３...および第２規制開口部３４５、３４５...が露出するように構成されている。

第１カバー部材３５の上板部３５１、第２カバー部材３６の上板部３６１および第３カバー部材３７を合せて天板部３８とする。また、第１カバー部材３５の上板部３５１と第３カバー部材３７との間の空部を第１天板開口部３８１とし、第２カバー部材３６の上板部３６１と第３カバー部材３７との間の空部を第２天板開口部３８２とする。

【００３４】

図１に戻り、収納部４は、物品を収容可能な略直方体状の棚で、幅方向の一方側から物品を出し入れできるように構成されている。

収納部４は、下端部に配置された底板部４１と、底板の幅方向の他方側の縁部から上側に延びる後板部４２と、底板部４１の長さ方向の両側の縁部からそれぞれ上側に延びる一对の側板部４３、４３と、後板部４２および一对の側板部４３、４３の上縁部よりもやや下側に配置された上板部４４と、底板部４１と上板部４４と間に配置された棚板部４５と、を有している。

収納部４は、幅方向の寸法が配線収容部３の幅方向の寸法と略同じ寸法で、長さ方向の寸法が配線収容部３の長さ方向の寸法の半分と略同じ寸法に設定されている。収納部４は、配線収容部３に対して長さ方向の他方側に配置されている。

【００３５】

図４乃至６に示すように、支持部５は、第１天板開口部３８１および第１規制開口部３４４に挿入されて配線収容部３の内部において床面１１に設置される第１脚部５１と、第２天板開口部３８２および第２規制開口部３４５に挿入されて配線収容部３の内部において床面１１に設置される第２脚部５２と、第１脚部５１および第２脚部５２の上端部と連結された連結板部５３と、を有している。

第１脚部５１および第２脚部５２は、それぞれ断面形状が矩形の棒状に形成され、上下方向に延在する向きに配置されている。第１脚部５１および第２脚部５２は、床面１１に設置されると、それぞれの上端部が配線収容部１Ａの上端面（第１～第３カバー部材３７の上端面）よりもやや上側に配置される。第１脚部５１および第２脚部５２の下端部にはアジャスタが設けられていて、第１脚部５１および第２脚部５２の高さを調整可能に構成されている。

第１脚部５１と第２脚部５２は、幅方向に配線収容部材３３および規制部３４の本体部３４１の幅方向の寸法よりもやや大きい寸法をあけて連結板部５３に連結されている。

【００３６】

連結板部５３は、板面が長尺の長方形となる平板状に形成され、板面が上下方向を向き長手方向が幅方向となる向きに配置される。連結板部５３は、幅方向（長手方向）の寸法が配線収容部３の幅寸法よりもやや小さく設定されている。連結板部５３の下面に第１脚部

10

20

30

40

50

５１および第２脚部５２の上端部が連結されている。

連結板部５３は、収納部４の底板部４１の下側に配置され、収納部４の底板部４１とボルトなどの固定具で連結されるように構成されている。このため、図示していないが連結板部５３には固定具が挿通される孔部（不図示）が形成されている。

【００３７】

支持部５を設置する際には、配線収容部３の上側から第１脚部５１を第１天板開口部３８１および任意の第１規制開口部３４４に挿通して配線収容部３の内部において床面１１に設置するとともに、第２脚部５２を第２天板開口部３８２および任意の第２規制開口部３４５に挿通して配線収容部の内部において床面１１に設置する。第１脚部５１および第２脚部５２が床面１１に配置されると、連結板部５３が配線収容部３の上側に配置される。なお、第１脚部５１を挿通する任意の第１規制開口部３４４および第２脚部５２を挿通する任意の第２規制開口部３４５は、幅方向に並んだ第１規制開口部３４４および第２規制開口部３４５とする。

10

【００３８】

床面１１に設置された第１脚部５１および第２脚部５２は、配線収容部材３３および規制部３４に固定されてもよい。第１脚部５１および第２脚部５２を配線収容部材３３および規制部３４に固定する場合は、例えば、第１脚部５１および第２脚部５２を挿通させたボルトなどの固定具を配線収容部材３３および規制部３４の取付孔部に取り付けることで固定する。

本実施形態では、連結板部５３の幅方向の寸法は、配線収容部３の幅方向の寸法よりもやや小さく形成されている。このため、連結板部５３は、配線収容部３から幅方向に突出しないように構成されている。

20

【００３９】

このように設置された支持部５に収納部４が連結される。本実施形態では、２つの支持部が設けられていて、これらの２つの支持部５に１つの収納部４が連結されている。２つの支持部５は長さ方向に間隔をあけて配置されている。本実施形態では、２つの支持部のうちの一方の支持部５が収納部４における長さ方向の一方側の下側に配置され、他方の支持部５が収納部４における長さ方向の他方側の下側に配置されている。

支持部５に固定された収納部４は、配線収容部３から幅方向および長さ方向にはみ出さないように配置されている。

30

【００４０】

次に、上述した第１実施形態による配線収容什器１Ａの作用・効果について図面を用いて説明する。

上述した第１実施形態による配線収容什器１Ａでは、配線収容部３の上方に収納部４が配置されていることにより、配線収容部３の上方の空間を収納として有効に利用することができる。

また、支持部５は、第１脚部５１および第２脚部５２がそれぞれ床面１１に設置された状態で収納部４を支持しているため、収納部４を安定した状態で支持することができる。また、支持部５が収納部４を支持することにより、配線収容什器１Ａを構成する支持部５以外の部材を機能部を支持可能な強度とする必要がないため、配線収容什器１Ａの小型化および製作コストの削減を図ることができる。

40

また、支持部５の第１脚部５１および第２脚部５２は、上下方向から見て配線収容部３を挟んだ位置に配置されているため、第１脚部５１および第２脚部５２が配線収容部３の内側に配置されていても、第１脚部５１および第２脚部５２が配線と干渉することを抑制できる。

【００４１】

また、本実施形態では、収納部４は、配線収容部３と略同じ幅寸法に形成され、上下方向から見て配線収容部３の外側に突出しないように配置されている。収納部４が配線収容部３の外側に突出していると、収納部４における配線収容部３から外側突出した部分を支持するための支持手段を設けなければならないことがある。これに対し、本実施形態では

50

、このような支持手段を設ける必要がないため、配線収容什器 1 A の製造や組み立てを容易に行うことができる。

また、収納部 4 が配線収容部 3 よりも外側に突出していないことにより、配線収容什器 1 A の意匠性を向上させることができる。

【 0 0 4 2 】

また、配線収容部 3 は、支持部 5 の第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 それぞれの位置決めを行う規制部 3 4 を有していることにより、第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 の位置決めを容易にでき、収納部 4 を正位置に容易に配置することができる。

また、規制部 3 4 は、それぞれ長さ方向に所定のピッチで配列された複数の第 1 規制開口部 3 4 4 , 3 4 4 ... および複数の第 2 規制開口部 3 4 5 , 3 4 5 ... を有し、所望の位置の第 1 規制開口部 3 4 4 および第 2 規制開口部 3 4 5 に第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 をそれぞれ挿通させることができる。このため、第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 の位置決めを容易にでき、収納部 4 を正位置に容易に配置することができる。

【 0 0 4 3 】

(第 2 実施形態)

次に、第 2 実施形態について、添付図面に基づいて説明するが、上述の第 1 実施形態と同一又は同様な部材、部分には同一の符号を用いて説明を省略し、実施形態と異なる構成について説明する。

図 7 に示すように、第 2 実施形態による配線収容什器 1 B は、第 1 実施形態による配線収容什器 1 B における配線収容部 3 の長さ方向の一方側に、人が着座することができる着座部 6 が設けられている。

着座部 6 は、第 1 実施形態の収納部 4 と同様に 2 つの支持部 5 によって配線収容部 3 の上側に支持されている。

着座部 6 は、板面が長尺の略長方形となる板状に形成され、長さ方向に延在し、板面が上下方向を向く向きで支持部 5 の連結板部 5 3 に連結されている。着座部 6 は、上面に人が着座することが可能に構成されている。着座部 6 は、配線収容部 3 と略同じ幅寸法に形成され、上下方向から見て配線収容部 3 の外側に突出しないように配置されている。

【 0 0 4 4 】

第 2 実施形態による配線収容什器 1 B では、配線収容部 3 の上方に着座部 6 が配置されていることにより、配線収容部の上方の空間を着座スペースとして有効に利用することができる。

また、着座部 6 は、支持部 5 に支持されていることにより、がたついたりせずに、安定した状態に設置することができる。

【 0 0 4 5 】

以上、本発明による配線収容什器の実施形態について説明したが、本発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

例えば、上記の実施形態では、収納部 4 や着座部 6 は、配線収容部 3 と略同じ幅寸法に形成され、上下方向から見て配線収容部 3 の外側に突出しないように配置されているが、収納部 4 や着座部 6 は、配線収容部 3 の幅寸法よりも大きく形成されていても小さく形成されていてもよいし、上下方向から見て配線収容部 3 の外側に突出するように配置されていてもよい。

収納部 4 および着座部 6 の形状や配置は、支持部が支持可能であれば適宜設定されてよい。

【 0 0 4 6 】

例えば、配線収容部 3 の上部に、収納部 4 と着座部 6 とが離間して設けられていてもよいし、配線収容部 3 の上部に収納部 4 が設けられずに着座部 6 のみが設けられていてもよい。また、配線収容部 3 の上部全体に収納部 4 や着座部 6 が設けられていてもよい。

例えば、図 8 に示す配線収容什器 1 C のように、配線収容部 3 の長さ方向の一方側と他方側の両方に収納部 4 A , 4 A が設けられて、長さ方向一方側に設けられた収納が幅方向の他方側から使用可能で、長さ方向の他方側に設けられた収納が幅方向の一方側から使用

10

20

30

40

50

可能に構成されていてもよい。

例えば、図 9 に示すように、着座部 6 D が設けられた配線収容什器 1 D、収納部 4 E が設けられた配線収容什器 1 E、配線収容什器 1 E とは形態の異なる収納部 4 F が設けられた配線収容什器 1 F、収納部 4 G および間仕切りパネル 7 が設けられた配線収容什器 1 H が長さ方向に配列されていてもよい。

【 0 0 4 7 】

また、配線収容部 3 の上部には、収納部 4 や着座部 6 以外の例えば、間仕切り機能を有する間仕切りパネルや、情報を表示する機能を有するディスプレイや、文字などを記載できる機能を有するホワイトボードなどの機能部が支持部 5 に支持された状態で設けられていてもよい。

10

【 0 0 4 8 】

また、上記の実施形態では、第 1 天板開口部 3 8 1 および第 2 天板開口部 3 8 2 の下側に規制部 3 4 が配置されて第 1 規制開口部 3 4 4 , 3 4 4 ... および第 2 規制開口部 3 4 5 , 3 4 5 ... が配置されているが、第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 の位置を規制する規制部 3 4 が設けられていなくてもよい。また、規制部 3 4 の形態は適宜設定されてよい。

また、上記の実施形態では、天板部 3 8 に第 1 天板開口部 3 8 1 および第 2 天板開口部 3 8 2 の 2 つの開口部が形成されているが、第 1 脚部 5 1 および第 2 脚部 5 2 を配線収容スペース 2 を挟むように配置できれば、天板部 3 8 に形成される天板開口部は、1 つの開口部であってもよいし、3 つ以上の開口部であってもよい。

【 符号の説明 】

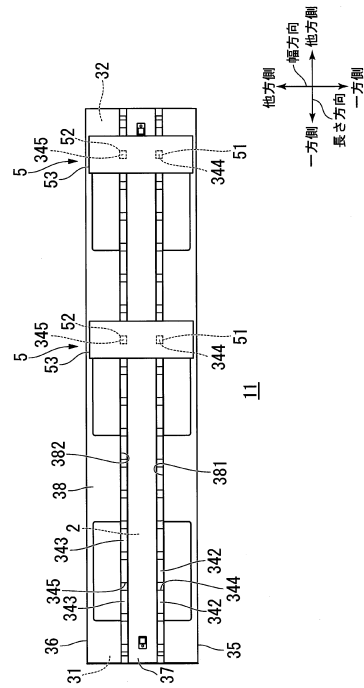
20

【 0 0 4 9 】

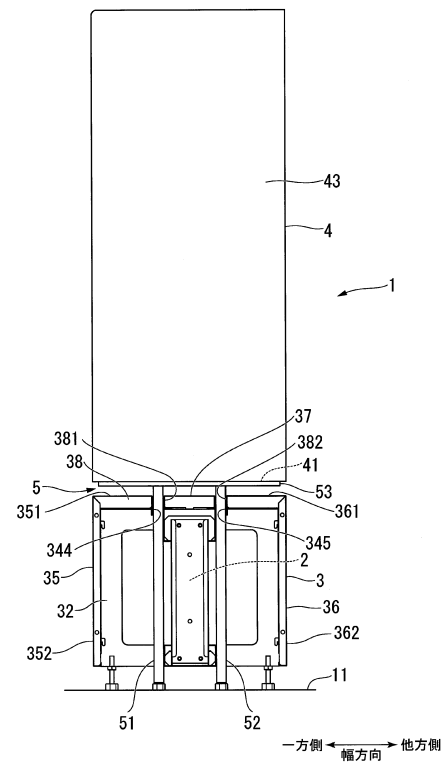
- 1 A , 1 B 配線収容什器
- 2 配線収容スペース
- 3 配線収容部
- 4 収納部 (機能部)
- 5 支持部
- 6 着座部 (機能部)
- 1 1 床面 (設置面)
- 3 4 規制部
- 3 8 天板部
- 5 1 第 1 脚部 (脚部)
- 5 2 第 2 脚部 (脚部)
- 3 4 4 第 1 規制開口部
- 3 4 5 第 2 規制開口部
- 3 8 1 第 1 天板開口部 (天板開口部)
- 3 8 2 第 2 天板開口部 (天板開口部)

30

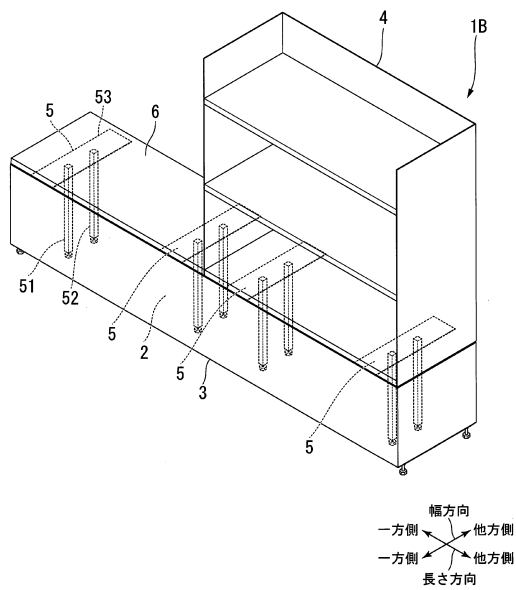
【図 5】



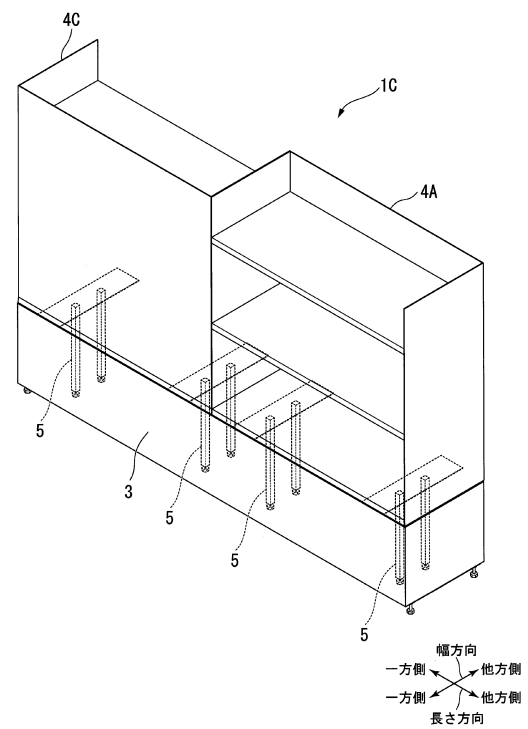
【図 6】



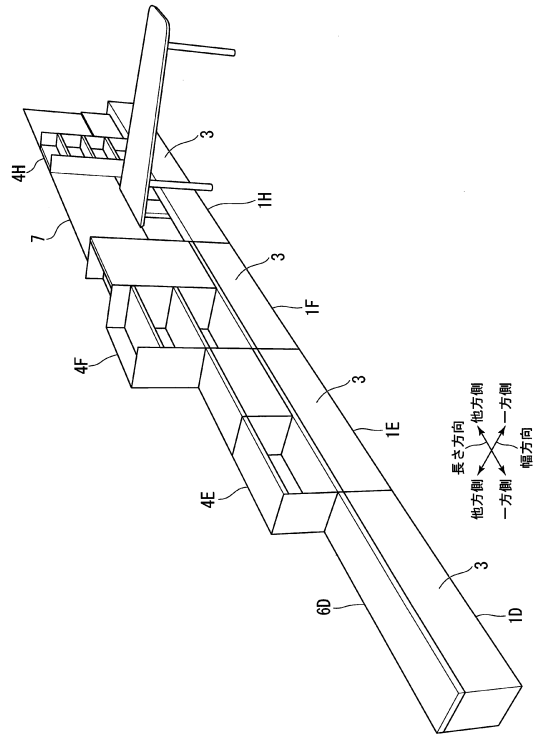
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(72)発明者 藤形 亮

神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社岡村製作所内

審査官 下井 功介

(56)参考文献 特開2004-223152(JP, A)

特開2000-023771(JP, A)

特開平08-299074(JP, A)

特開2016-209146(JP, A)

韓国公開特許第10-2013-0025644(KR, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A47B 1/00~41/06、

77/00~77/18、

83/00~88/22、

91/00~97/08